

---

# 騎士達の宴

玄知

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

騎士達の宴

### 【Nコード】

N4060B

### 【作者名】

玄知

### 【あらすじ】

自分の剣を捧げた人の為。故郷の為。平和の為。誇りの為。7人の騎士達は戦い続ける。

## 新たな風

何かを始めるには何かが終わらなければいけない。歴史が同じ事を繰り返すのはそのせいなのかもしれない。この話しはその終わりと始めに生きた者達の話した。

物語の舞台であるハインランドには騎士道というものがあつた。王に忠誠を誓い、女性には優しく、そして誇りを大切にする生き方である。

このハインランドでは戦争が起きバン・ザルバ王が率いるファラント国と、ハイン・オルテンシア女王が率いるソレイル国が雌雄を争っていた。

しかしファラント国にはラクスという猛将がおり、必ず戦争前の一騎打ちでソレイル国が負けるために戦意が落ちソレイル国は負け続けた。しかしソレイル国には一騎打ちには強くないが指揮能力が高く知力がある騎士達がいたために潰滅的な打撃はくらわなかった。しかし徐々に領地を失いはじめていた。

ファラント国がソレイル国から奪った領地にいた市民達は、三等市民と呼ばれ税も多くとられ歎き悲しんでいた。

元ソレイル国の土地ナスラ村にまだ騎士になれない歳の若者達が2人いた。

「な、スコール最近ちゃんとした飯食ったか？」

「いや、あんまり食ってない…ギルの家はどうか？」

「俺んちも最近はどうどん食べる量が減ってるよ」

「はあ……」

今、二人同時にため息をしたのはスコールとギルランダだ。二人と

も家が近く兄弟のように仲が良かった。

「また狩りにでも行くか！」

ギルランダはそう意気こんだがスコールは、

「前みたいな事は嫌だぞ」

と、言い放った。

「たしかに……」

4日前に行った時は収穫が0で、逆に動きすぎて飢えてしまった。

「でも今日は良い予感がするんだ」

「ギル：お前の予感はあるてにならない」

「いや！今日は信じてくれ！夢をみたんだ」

「夢？」

「そうだ！俺は空たかく浮いていて雲のせいで何も見えなかった。

でもお前が馬にのり凄い勢いで駆けたおかげで雲は晴れた。そして

お前は獲物を捕らえて俺の方に向かって獲物を見せてくれた」

「……………」

「なんか反応しろよ」

「そんなに狩りに行きたいのか？」

「ああ」

「じゃあ行くか」

「一応言っておくが嘘じゃないぞ」

「分かった、分かった。じゃあ昼を食べ終わったら東門の前で」

「分かった。じゃあ後で」

「またな」

そして二人の若者達は馬に乗り今東門からでようとしている。

物語は、まだかまだかと始まりを急いでいる。

## 新たな風（後書き）

良かったら感想を下さいm（――）m  
m今回が初めて書いた作品です。  
最後まで読んで頂けたら幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4060b/>

---

騎士達の宴

2010年12月30日12時11分発行